

安佐市民病院

荒下地区に移転新築

松井市長「地域が活性化」 正式表明

老化に伴う広島市安佐北区の安佐市民病院の建て替え計画で、松井一実市長は6日、可部南の現在地から北西約3キロの同区亀山南の荒下地区に移転、新築する方針を正式に表明した。

(岡田浩平)



荒下地区は2016年春の開業を予定するJR可部線の電化延伸の終点に隣接する。松井市長は移転理由について、交通網の再整備などを踏まえ「今後の

地域の活性化、究極的には市全体の活性化になる」と強調した。

さらに、現在地建て替えるを求める住民意見の背景には病院の転出による地域衰退への懸念があると指摘。「病院を上回る集客機能を導入できれば答えになる。何がいか住民と十分議論したい」と、跡地の有効活用で理解を得る意向を示した。

市は13日開会の市議会定例会に提出する13年度病院事業会計補正

予算案に、基本計画の作成費2千万円を計上。市議会に移転の賛否を仰ぐ。市議会内は割れており、補正予算案が成立するかどうかは不透明だ。安佐市民病院を含む市立4病院

地元、歓迎と批判が交錯

広島市が安佐市民病院を現在地の安佐北区可部南から同区亀山南の荒下地区に移転、新築する方針を正式表明した6日、地元では歓迎と批判の声が交錯した。

「荒下地区は自然に囲まれ、療育環境も整っている。病院を核にまちづくりが進む」。

可部地域の7学区のうち5学区は、昨年12月中旬に荒下地区に移転新築を求める要望書を市議会と市に提出した。JR可部線利用促進同盟会の大畠止彦会長(73)は「可部線の終点駅となる新駅と直

結する病院。乗客増加にもつながる」と期待する。

一方、現在地周辺の住民の間には失望や怒りの声があがった。5万5千人を超す署名を集めた現地建て替え期

成同盟会の松井修会長(69)は「民意が反映されていない」と批判した。可部南商店会の加川ミツ稚会長(37)は「病院利用者のために長年、営業を続けてきた。移転したら生活できかない」と肩を落とした。

市は、可部バイパス

から荒下地区へ片側1車線の堤防道路を新設し、進入路拡幅も計画する。安佐医師会の伊藤仁会長(67)は「アクセスの改善、県北部の拠点病院としての医療の充実をもとに図ってほしい」と注文する。

現在地(約2・9ヘクタール)は見えていない。広島文教女子大(佐北区可部東)を運営する武田学園が購入意向を示しているが、具体化はこれから。病院事業局は「移転正式決定後に、地元活性化策を協議したい」としている。

(中川雅晴)